

地域課題探求型学習における地域資料の構造化の研究

～旧輪中地区（旧長岡村）の土地と先人の記憶をつなぐ～

伊串美香^{*1}

＜概要＞小学校中学年の社会科では、全国統一の教科書に加えて、市町村教育委員会等が発行する社会科副読本が使用されている。近年、市町村合併や学校統合等により通学圏内である「身近な地域」が広域になったことで副読本にも変化がみられる。第4学年の社会科単元「きょう土の伝統・文化と先人たち」ではその対象が町から市に変わった。そもそも児童・生徒が学ぶための子ども向け地域資料は少なく、加えて2020年からのコロナ禍により地域を学ぶリアルな体験の場が減少している。また、社会科授業を担当する教師においては、多忙な業務のなかで各地域の資料を収集し教材化することは時間的に難しい。本研究ではこうした課題に着目し、身近な地域の土地の記憶を伝えるために、稲沢市祖父江町（長岡地区）をモデルとしてその歴史的背景、文化や伝統等をまとめ、デジタル教材として提示することを試みる。児童・生徒が一人一台の端末を利用するなかで、地域の成り立ち等を効果的に学ぶ手段となり得るかを研究する。

＜キーワード＞ 地域教育， 地域資料， 社会科副読本， デジタル学習材， 知識構成型ジグソー法

1. はじめに

平成18年の「教育基本法」⁽¹⁾改正により、「教育の目的及び理念」には「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」との文言が加えられた。また、学校教育法第21条（義務教育の目標）第3項⁽²⁾にも同様の内容が規定されており、学習指導要領の各教科に反映されている。平成29年告示の小学校学習指導要領社会編⁽³⁾「教科の目標」には次のように示されている。「地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。」

また、教育基本法が改正された同年同月に「地方分権改革推進法案」⁽⁴⁾も成立された。「地方にできることは地方に」という方針の地方分権が本格的にスタートしたのである。これにより、平成の大合併と言われる大規模な市町村合併が行われ、愛知県では平成23年4月1日までに15の新たな市が誕生した⁽⁵⁾。これらの合併について全国町村会⁽⁶⁾は調査を行い、プラス面とマイナス面を挙げている。そのうちのマイナス面には、「地域の個性（歴史、文化、伝統）の喪失による不安」の項目が挙げられている。また、市町村合併は全国の公立学校の配置にも影響を及ぼした。少子化が

追い風となり、平成元年に全国で24,608校あった小学校が、平成30年には19,591校まで減少したのである⁽⁷⁾。

これらの市町村合併及び学校の統合は、子どもたちの学びに少なからず影響を与えている。小学校第3・第4学年の社会科授業では、全国統一の教科書に加えて市町村教育委員会等が発行する社会科副読本が使用されているが、この副読本の内容にも変化がみられた。本来子どもたちの通学圏内である「身近な地域」を対象として作られる副読本であるが、合併や統合により該当の地域が広域化したため、学ぶ内容が「身近」ではなくなったのである。例として、第4学年の社会科単元「きょう土の伝統・文化と先人たち」ではその対象が町から市に変わった。そもそも児童・生徒が学ぶための子ども向け地域資料は少ない。さらに2020年からのコロナ禍により地域を学ぶリアルな体験の場が減少している。また、教育現場の教師においては、多忙な業務のなかで各地域の資料を収集し教材開発することは時間的な制約があり難しい。

コロナ禍では学校がやむなく休校となり、地域行事が中止になる等、外出自粛が余儀なくされた。その反面、デジタル化やICT教育が進むこととなった。2019年より国の政策として始まったGIGAスクール構想が後押しされた形となった。教科書や社会科副読本等の電子版が活用され、一人一台の端末が配布されるとともに、授業では電子黒板が使われ、アー

^{*1} Igushi, Mika : 岐阜女子大学大学院 文化創造学研究科

カイク画像の使用や、遠隔地の学校との交流授業等が行われるようになった。自らの地域文化を紹介し、他地域との比較により新たな発見をする相互学習も可能となった。こうした時代背景を鑑み、教科書を始めとする各種教材は今後デジタル化の方向に進展するだろう。デジタルを活用することで地域の枠を超えた幅広い学びを得ることができる。一方で地域学習の初めの段階では、身近な地域として我が町を知ることが必要ではないかと考える。

2. 地域学習の課題と研究目標

(1) 地域学習の課題

市町村合併によるプラス面、マイナス面については全国町村会の調査⁽⁶⁾や愛知県の調査結果⁽⁸⁾で確認することができる。その調査のマイナス面のひとつに「地域の個性（歴史、文化、伝統）の喪失」が挙げられている。このことは、社会科副読本にも影響を与えている。子どもたちが最初に学ぶ地域学習教材として、社会科副読本の役割は大きい。なぜなら、昨今、各家庭で地域活動への参加度合いが異なる。そのため、子どもたちの知識や体験に差が生じているのである。さらに地域に特化した子ども用の郷土資料や学習教材が少ないため、個別に学ぶことも難しい。

教員の立場からは、本来、地域資料を教材化するにあたり、教師自身が地域社会と向き合い地域の土地や産業、人々の様子を見て歩き、地域の人の話を聞くことにより学習指導要領の内容に関わる地域の事象を自らの目でとらえ地域教材の開発を進める必要がある⁽⁹⁾。しかし、近年大きな社会問題となっている教員の過剰労働を鑑みるに教材開発に大幅な時間を割くことは難しい。青木、堀内（2013）は、多忙化の質的変化を比較し、その特徴や実態調査の課題を整理している⁽¹⁰⁾。

以上のことから、地域学習の課題は、市町村合併による地域広域化による副読本への影響に併せて、そもそも子ども用の地域教材が少なく、教員の多忙化により教材開発が進まないことで学校現場での地域資料が活用されないことが課題であるとわかる。

(2) 研究目的

児童・生徒は、地域を学習することで、身近な地域の認識を深め、親しみや愛着を持つ。地域の一員としての自覚を持ち、将来の地域

資源を生かす担い手として期待されるのである。また、土地の歴史や成り立ちを知ることには自然災害対策としても有効である。教員に関しては、地域資料がデジタル化されていることで資料収集の負担が軽減され、授業研究の補助資料として活用しやすくなる。

(3) 研究方法

身近な地域が学べる学習教材の開発にあたり、その対象地区として稲沢市祖父江町長岡地区をモデルとする。祖父江町長岡地区は、稲沢市の最西に位置する木曽川沿いの地域である。明治20年までは岐阜県であった馬飼村（現在の長岡小学校周辺）は、かつての輪中地域である。長岡村は、昭和31年に祖父江町に編入した最後の村でもあり、祖父江町社会科副読本（平成8年発行）⁽¹¹⁾には、「祖父江町のうつりかわり」として示されている。平成17年の市町村合併では、平和町と共に稲沢市に編入合併された。研究資料として、合併前後の社会科副読本を読み取りその変遷と現状を確認する。また、長岡地区の文献や現地調査を行い、そのまとめとしてデジタル地域教材を開発する。内容は「デジタル紙芝居」「史跡・伝承マップ」である。さらに、開発したデジタル学習材を使用した学習指導案を作成する。

3. 研究地域の概要

(1) 長岡地区の歴史的背景

祖父江町の沿革をたどると、明治29年に祖父江村、山崎村、領内村、丸甲村、牧川村の5村がひとつの町（祖父江町）となった。木曽川沿いの村であるこの地域の一部は岐阜県に属していた時期がある。上記5村に属さない長岡村はその前身を馬飼村という名称であった。三拾町村、川東村、拾町野村とともに江戸時代には美濃国（現在の岐阜県）の中島郡に属していた。明治20年（1887年）に馬飼村と拾町野村は、美濃国中島郡から尾張国中島郡（現在の愛知県）に編入する。その後、明治39年に馬飼村は長岡村と名称が変わり、さらに昭和20年（1945年）には、長岡村、拾町野村、西鵜之本村、四貫村、神明津村、拾町野村の5村がひとつとなり長岡村となった。そして、その11年後の昭和31年（1956年）に長岡村は祖父江町となる。馬飼村が美濃国中島郡であったことは、「美濃国十八郡之内支配所絵図」⁽¹²⁾等で確認することができる。そ

他の絵図で年代を追ったところ、馬飼村が美濃国であったのは、慶長19年（1614年）から明治20年（1887年）までの約260年間であり、その間、輪中地域として水の恩恵を受けながらも水との戦いに悩まされてきた⁽¹³⁾。馬飼村周辺が輪中地域であったことは、江戸時代の「木曾三川流域絵図」等で確認できる⁽¹⁴⁾。

4. 社会科副読本の変遷

(1) 稲沢市の社会科副読本の変遷

稲沢市の社会科副読本の変遷について、市町村合併（2005年）前後と近年使用されている内容の違いを示すこととする。稲沢市の社会科副読本は市の教育委員会から発行され、各小学校への配布されるため一般には流通されていない。また、稲沢市図書館にも全て所蔵されていないため、今回入手できた7点の社会科副読本の中からその傾向を示すこととする。市町村合併以前は、稲沢市内の小学校14校に『わたしたちのまちいなざわ3年生』及び『わたしたちのくらし稲沢4年生』が配布されていた。また、祖父江町の小学校6校には『わたしたちのまちそぶえ』が配布されていたと思われる。いずれも児童、生徒にとって地元の地名や川の名称が使われていることで、身近な地域の地理的環境がわかりやすく馴染みのある内容である。また、歴史的事実も折り込まれているため、その土地の成り立ちや文化的背景などの理解にも役立つ。それらの内容の一部は合併後の平成18年（2006年）『わたしたちのいなざわ 三・四年生』にも引き継がれているが、詳細は年々省略傾向にある。

5. 地域資源コンテンツの構造化

(1) デジタル学習教材

① デジタル紙芝居

長岡地区に伝わる伝承等をもとにしたデジタル紙芝居「一本松は見ていた」（図1）を作成した。かつての長岡小学校教員と保護者により作成された紙ベースの紙芝居に新たに音声を収録しデジタル化したものである。



図1. デジタル紙芝居

② 静止画素材による地域マップ作成

紙芝居「一本松は見ていた」に関連する地域の主要マップを作成した（図2）。地域の主要箇所6カ所の撮影を行い、Googleマップで位置情報を表示した。各位置ポイントには写真を貼り付け（図3）、岐阜女子大学デジタルアーカイブ研究所のURL⁽¹⁵⁾をリンク先とした。リンク先（図4）では参考資料等の詳細が確認できる。ポイント箇所は次の6カ所である

1. 史跡とどめき川渡船場跡
2. 旧佐屋川野田渡船場跡
3. 水屋
4. 地泉院
5. 愛知県西中野渡船場
6. 白髭神社



図2. Google Map



図3. Google Map



図4. 岐阜女子大学デジタルアーカイブ研究所

(2) デジタル教材を使用した授業指導案

① 知識構成型ジグソー法による授業提案

前章では、地域資料を子どもたちにわかりやすい表現でデジタル化することを試みた。次にその資料を利用して学習単元に沿った授業提案を行うことで地域学習の定着を促す。対象者は長岡小学校第4学年とする。第4学年の社会科の単元では「きょう土の伝統、文化と先人たち」を学ぶため、教科横断学習として総合的な学習の時間のなかで「長岡地区の歴史と自然環境」を単元として設ける。児童観については、長岡小学校は、木曾川近くに隣接している小学校であり、木曾川河川堤

防の清掃活動が恒例行事となっている。また、6月には田植えの経験、冬には木曽川でサツキマスの稚魚を放流し、春には戻ってきたサツキマスで郷土料理学習を行う等、周辺の自然環境を生かした体験を学校行事の中で学んでいる。今回の授業提案としては、知識構成型ジグソー法を用いた協働的学習により、江戸時代と現在の地図を比較することから始める。エキスパート活動では、デジタル資料を元に「佐屋川」「渡し船」「水屋」について小グループに分かれて調べ学習を行い、クロストークでは新たなグループ内で情報の共有、比較、吟味を行うことで、総合的に先人が築いてきた川と人との関係について学ぶことをめざす。

6. おわりに

本研究では、小学校中学年対象の地域資料をデジタル学習材として開発し、知識構成型ジグソー法による授業指導案を作成した。地域資料の収集にあたり、身近な地域資料の入手が困難であることや子ども用の地域資料として貴重な社会科副読本が保管されていないことが地域資料の活用を妨げている要因であるとわかった。これらのことから、市区町村の教育委員会および学校現場、地域の公共図書館との連携が必要であると感じる。地域資料の書誌情報をまとめ、地域の公共図書館のホームページ等で公開することで誰もが気軽に利用することが可能となる。さらに地域住民が書き残した記録やオーラルヒストリーをデジタル資料として残していくことも地域の歴史や文化の継承に役立つものとなる。

7. 参考文献

- 1) 文部科学省. 教育基本法. 第一章「教育の目的及び理念」.
https://www.mext.go.jp/b_menu/kihon/about/mext_00003.html, (2023. 5. 21)
- 2) 文部科学省. 学校教育法第2章第21条（義務教育の目標）第3項.
https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1317990.htm, (2023. 5. 21)
- 3) 文部科学省. 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説社会編.
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_003.pdf, (2023. 5. 21)

- 4) 内閣府. 地方分権改革推進法（平成18年12月15日公布）
<https://www.cao.go.jp/bunken-suishin/archive/category01/archive-h.html>, (2023. 5. 21)
- 5) 愛知県. 愛知県の市町村合併. (2019年5月10日)
<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shichoson/0000005246shichoson-gappei.html>, (2023. 5. 21)
- 6) 全国町村会. 平成の合併をめぐる実態と評価. 平成20年10月8.
www.zck.or.jp/teigen/gappei-ma.pdf, (2023. 5. 21)
- 7) 文部科学省. 文部科学省. 小中高等学校の統廃合の現状と課題.
https://www.soumu.go.jp/main_content/000638148.pdf, (2023. 3. 28)
- 8) 愛知県における平成の合併の効果と課題. 平成23年3月.
<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/2125.pdf>, (2023. 3. 28)
- 9) 井ノ尾功. 「学びと社会Vol.03」こんなときどうしよう？①地域教材がみつからない！. 日本文教出版. <https://www.nichibun-g.co.jp/data/web-magazine/manabito/shakai/shakai003/>, (2023. 6. 2)
- 10) 青木純一, 堀内正志. 教員の多忙化をめぐる経緯と教員勤務実態調査に関する一考察—学校における効果的な多忙化対策の基本的論点を探る. 日本女子体育大学紀要44巻. 17-26. 2014年3月.
- 11) 祖父江町教育委員会. 祖父江町わたしたちのまちそぶえ. 平成8年4月1日.
- 12) 美濃国十八郡之内支配所絵図
<https://websv.aichi-pref-library.jp/ezu/ezudata/jpeg/699.html>, (2023. 3. 28)
- 13) 祖父江町史編さん委員会. 祖父江町史編さん研究会. 祖父江町史. 昭和54年. P225.
- 14) 木曽三川流域大絵図. 高木家文書デジタルライブラリーE-4-(1)-6267
https://libdb.nul.nagoya-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000011Takagi_TECA-6267-000x, (2023. 6. 3)
- (15) 岐阜女子大学デジタルアーカイブ研究所.
<https://digitalarchiveproject.jp/category/database/岐阜県私立大学地方創生推進事業/page/3/>, (2023. 6. 3)